

2019年度第2四半期
決算説明会における質疑応答（2019年11月12日開催）

※決算説明会開催日（2019年11月12日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2019年度第2四半期決算に関して

<p>当四半期の粗利益率は 8.3%と通期業績予想と同程度の水準になったが、プラス要因とマイナス要因があれば、その内容を教えて欲しい。</p>	<p>主なプラス要因は、ヤマル LNG プロジェクトにおけるコンティンジェンシーの取り崩しによる採算改善である。</p> <p>一方、主なマイナス要因は、アルジェリア・ガス昇圧設備建設プロジェクトでの追加コストである。本件は、原油価格が低迷し顧客の設備投資が減少する中、厳しい競争環境下で受注したもので、県外からの労働者の雇用を地方政府によって制限される中、遂行してきた。工事最盛期に入って社会情勢の影響もあり、労働者不足が顕著となったことで、県外、海外からの動員について交渉の末、地方政府の承認が得られたことから遂行計画を見直し、工期延長に伴う追加コストを計上した。一部は、工事損失引当金も計上した。</p> <p>現在、追加コストの回収に向けて顧客と交渉していくこととしており、具体的な金額の内訳については、非開示とさせていただきます。</p> <p>なお、同国では本年4月に大統領が辞任して以降、政情不安が続いており、引き続き注視が必要と認識している。</p>
<p>通期予想に対し、当四半期の売上高の進捗率が低い要因を教えてください。通期売上高の見通しは達成できそうか。</p>	<p>当四半期の売上高の進捗が低い要因は、LNGカナダプロジェクトの進捗が、本年度後半から大きく伸び始めるためであり、当初の想定通りである。現時</p>

	点では通期売上高の見通しは、達成できると考えている。
営業活動によるキャッシュ・フローが、昨年同期比で大幅に改善しているが、理由は？	これまでキャッシュ・フローを圧迫していたアルジェリア案件の工事債権の回収が急速に進んだこと、およびヤマル LNG プロジェクトで配当金が支払われたこと等によるものである。

2. 不採算案件の状況

(過去に工事損失引当の対象となった) 案件に関し、現況を教えてください。	<p>サウジアラビアの製油所案件は、年度内の完成に向けて順調に進捗している。</p> <p>クウェートの製油所案件に関しても、年度内の完工を予定しているが、現在顧客の厳格な要求に対する手直し工事などを遂行中であり、引き続き厳しい採算管理が必要と認識している。</p> <p>アルジェリアのサテライト設備案件については、今年度第 1 四半期に追加コストを計上したものの、現状は計画通り順調に進捗している。</p> <p>国内で建設中の大型太陽光発電設備は工事最終盤に入っており、年度内の完工を予定している。</p>
--------------------------------------	--

3. その他

ナイジェリア LNG の第 7 系列増設プロジェクトを失注した理由を教えてください。	入札価格差による結果であると聞いている。非常に残念ではあるが、当社グループとして、現状考え得るリスクをコスト化し入札価格に含めて入札に臨んだ結果であり、こうしたコストを削減してまでも受注しなければならない状況ではないと考えている。
最近受注したモザンビーク LNG プロジェクトの粗利率は 10%程度との理解で良いか？	当社はランプサムプロジェクトの規定粗利率を 10%に設定しており、本案件も同様の粗利率を想定している。

<p>来期（2021年3月期）の受注目標のイメージについて教えてください。</p>	<p>現時点ではあくまでイメージであるが、我々がターゲットとする案件は豊富に存在すると思われ、来期も今期と同程度の水準になるのではないかと思います。</p>
<p>中長期的な成長戦略について、どのようなストーリーを考えているのか？</p>	<p>今回の持株会社体制への移行は、まさに複数事業から確実、かつ安定的に収益を創出し、持続的な企業価値向上に向けた第一歩である。 現在、現中期経営計画（5か年計画）の期中であり、2021年度からスタートする中期経営計画で改めてお話したい。</p>

以上